

## 平成 30 年度 社会福祉法人 高岡市身体障害者福祉会 事業報告

### <法人全体>

- ・当法人は、「利用者の尊厳と地域社会との共生・連携の思想を基本理念とし、公平で公正な法人経営に務める。」とともに、地域福祉(高岡福祉圏)の充実発展に寄与してきた。
- ・高岡市長生寮の民営化に伴い、引受法人に応募し 7 月 31 日に当法人への移管が正式に決定した。
- ・職員の働きやすい環境整備として、福祉機器を積極的に導入し、身体的介護負担の軽減を図り、産業医と連携しストレスチェックを実施することで職員の心のケアにも努めている。経営組織のガバナンスを強化し、経営資料の公開や機関誌の発行に留まらず、ブログで施設内の行事や出来事を発信している。
- ・「利用者や働く職員から選ばれる」法人を目指し、利用者の処遇改善と職員の待遇改善を進めている。

### 社会福祉事業

#### <本部拠点区分>

- ・平成 29 年度事業報告・決算の承認
- ・社会福祉充実計画の実施
- ・高岡市長生寮の当法人への移管が決定（平成 31 年 4 月 1 日事業開始）
- ・養護老人ホームの名称が養護老人ホーム 志貴野長生寮に決定
- ・養護老人ホーム 志貴野長生寮の職員・各拠点事業所職員の積極採用
- ・定款の改正・組織規程の一部改正・就業規則の一部改正・経理規定の一部改正・職員給与規定の一部改正
- ・養護老人ホーム 志貴野長生寮・志貴野苑 所長の選任

#### <志貴野苑拠点区分>

- ・志貴野苑入所施設の本年度の退所者は 1 名、入所者は 0 名であった。退所者 1 名は、高齢と重度化により特別養護老人ホーム 志貴野長生寮の短期入所に 1 名移行した（その後、入所に切替）。全体的な利用者状況として 1 ヶ月以上の長期入院や長期の自宅療養も増えるなど、重度化が進んでいる。
- ・志貴野苑 B 型就労部門の今年度の入退所者状況は、11 月末に 1 名が一般企業へ就職前のトライアル雇用(試用期間)で退所。利用開始者は、3 名で、全て送迎利用である。29 年度 6 月から送迎を開始して合計 6 名が増えている。また、既存の利用者も天候不順やご家族の希望等により送迎希望をされるケースも出てきており、送迎サービスを利用される方が増えている。

- ・平成 30 年度就労支援の事業別売上は、加工事業では 16,323,768 円、印刷事業は 28,007,088 円(いずれも内部取引含む)で、合計 44,330,856 円であり、前年比 1.9%アップのやや増となった。しかし、平均工賃は前年比 10%減の 24,472 円であったが、これについては加工の売上げが減っている事や、原材料費等の値上げや外注加工費の増による。
- ・施設整備について、志貴野苑の利用者の重度化に伴う車椅子トイレの増設及び小浴槽の改修工事が 12 月に完成した。また、吊上げリフトを 2 月に購入したが、これにより職員 1 人でも床から持ち上げが可能となり、職員負担の軽減や利用者の安全が図られた。
- ・志貴野苑障害者相談支援センターは、平成 27 年 9 月より休止中。
- ・高岡市志貴野身体障害者相談支援センターに於いて、一般相談やサービス等利用計画やモニタリングを作成している。モニタリング実施標準期間の一部見直しにより頻度が増えた事により、慢性的に人手が足りない状態であり新規利用者が受けられない状態が続いている。
- ・苦情解決報告…平成 30 年度は、苦情や要望の申し出はありませんでした。これからも利用者の皆さんが生活する上で、気軽に話せる環境づくりに努めてまいります。

#### <志貴野ホーム拠点区分>

- ・志貴野ホーム入所施設の本年度の退所者は 5 名・入所者は 4 名であった。平成 31 年 3 月 31 日時点での入所待機者は、男子 3 名女子 5 名計 8 名である。以前は、脳血管障害の利用者が 70 歳を目安に介護保険施設へ移行をしていたが、現在は障害の特性（先天性の障害）から介護保険施設への受け入れも難しく、又利用者の此処にいたいという主張もあるが高齢化による健康悪化のため病院への長期入院者が増え待機者の受け入れが少しずつ進んでいる。
- H26 年 4 月～障害支援区分施行となり、より障害の多様な特性に応じた支援の度合いが反映されたことから入所利用者支援区分は、区分 6 が 34 名、区分 5 が 14 名と区分 5・6 の示す割合が 96%で、重度化が進んでいる。
- ・設備整備において、財)JKA からの補助金を受けて、全面的な志貴野ホーム及び志貴野ホーム障害者福祉センターの屋根・庇の防水補修を実施した。
  - ・短期入所は、平成 30 年度の延利用者は、847 人で、2.32/日。最近は、重度（区分 5・6 の示す割合が 85%）で個室対応が必要な利用者、又生活介護を 前後に利用しての II 型利用者が多いのが特徴である。マンパワー不足により、1 日当たり 2 名前後での受け入れを継続している。
  - ・志貴野ホーム障害者福祉センター本年度の契約終了者は、2 名（1 名は区

分5で介護保険移行、1名は区分6で施設入所のため)となっている。また、1名(区分6)が入院中で、退院後は当施設の利用再開予定である。利用日の増加希望者と、新規利用者希望については、各1名挙がっており契約を進めていく予定である。介護現場においては、職員が送迎に出ている時間帯に人員不足があり、利用者の受け入れ送り出しを隣接する志貴野ホームの職員に依頼している状態である。

- ・高岡市障害者福祉センター本年度の契約終了者は4名(2名が施設入所、1名が介護保険移行、1名が自己の都合のため)となっている。長期入院のため1名の方は利用なし。新規利用者は今のところなく1日当たり1~2名の新規利用者の受け入れをしていかなければならない。ひまわり(重度心身障害者)利用者は1日平均2~3名の受け入れをしている。軽度の発作など見守り支援が必要となっており2名の職員で対応している。
- ・設備整備においては、高岡市ふれあい福祉センター施設内・ボイラーの老朽化に伴い、センター内入浴施設が縮小されているため、高岡市障害者福祉センターでは、入浴に使用する給湯設備が必要となってくる。
- ・苦情解決報告…平成30年度は、志貴野障害者福祉センター利用者よりアレルギーに関する内容で1件挙がっております。安心してご利用していただけるよう対応策を検討することで、解決に至っておりますが、これからも利用者の方には、安全にまた安心してご利用していただけるよう努めてまいります。

#### <志貴野長生寮拠点区分>

- ・平成30年度の入退所は入所28人、退所30人(H19年度~H30年度の平均入退所は24.45人/年)。
- ・平成30年度の平均入所実稼働率は、97.50%(昨年度比▲0.02%)で目標値98%以上を達成できなかった。背景には短期間に死亡退所が集中し新規入所を適時にできなかった期間があったことと、入院者の増加が考えられる。死亡退所が集中した要因の分析はできていないが、死はいつ起きるかわからず対応には限界がある。それよりも、現に在籍している利用者の入院をいかに減少させるかが重要と思われる。ただし、高齢者で要介護度の高い方は全身状態が良くない場合も多く、入院につながりやすい傾向がみられており、こちらも効果的な対応には至っていない。
- ・平成30年度の入所者の平均介護度は4.07、退所者の平均介護度は4.33。昨年度と同様に同一年度内で入退所となった利用者が4人おり、重度者の入所利用が顕著。
- ・平成30年度は養護老人ホームからの入所が9件(昨年度比+3人)。今年4月からの養護老人ホーム民営化を睨んで要介護度の高い利用者の移行を

進めた結果といえる。逆に言えば養護老人ホーム利用者の重度化の進行が著しいともいえる。

- 平成 31 年 3 月 31 日時点の入所待機者は 57 人（昨年度比+15 人）。うち要介護 4, 5 の人数は 21 人（昨年度比+5 人）。
- 特養は、他施設では利用を渋られる生活保護受給者や法人減免対象者などの受入も社会福祉法人の使命として積極的に行っており、平成 30 年 3 月 31 日時点で生活保護受給者 5 人（昨年度比▲4 人）、利用者負担第 1 段階の利用者 1 人（昨年度比+1 人）、法人減免適用者 2 人（昨年度比±0 人）を受け入れている。
- 短期入所は、平成 30 年度の延利用者数は 1,497 人（昨年度比+73 人）で平均 124.75 人/月。平成 29 年度平均約 119 人/月より改善し、稼働率も目標 75%以上を達成（82.06%）した。
- 平成 30 年度は短期入所の実利用者数は 40 人。平成 29 年度実人数が 46 人であり、新規利用者は微減。
- 短期入所は、緊急的な利用希望にもできるだけこたえるために、介護現場の理解と協力が不可欠だが、それが十分に得られていることもあり、利用率向上につながっている。
- 短期入所は、他事業所では受入困難な利用者（尿留置カテーテル、ストーマー、インスリン注射など）の受入も実施しており、そうした情報の周知が居宅ケアマネジャーの間にも進んでおり、利用率向上につながっていると思われる。
- 通所介護の平成 30 年度の通所介護の平均利用者数は 8.38 人/日。平成 27 年度 10.08 人/日、平成 28 年度 10.03 人/日、平成 29 年度 8.96 人/日と利用率の減少傾向が続いている。背景には利用者が入所したり、養護の利用登録者が入院や短期入所重視型利用に切り替わったりで利用が少なくなったという面もあるが、在宅の利用者の獲得が思うように進んでいないことが大きく、どのように地域に対して事業所をアピールしていくか、営業力が求められている。対応として、施設機関紙のデイサービスのページの写真を作品主体から創作活動の利用者の様子主体に見直し、デイサービスの雰囲気や伝わるように改善した。この対策については、地域密着型サービスにおける運営推進会議では一定の評価を得られ、在宅からの利用申し込みも以前よりは若干増えているように思われる。
- 居宅介護支援について、平成 30 年度末の契約者数は 37 人（前年度比▲2 人）。契約者数が 40 人を超えると減算となるため、ある程度の人数で抑えるような調整が必要であり、今後は契約者数の人数調整を考慮しながら、真にサービスを必要とする人を支援することが求められる。

- 志貴野長生寮では、平成 30 年度に館内照明の LED 化工事（第 1 期）を行った。この工事は全 3 期あり、このあと平成 31 年度、令和 2 年度と継続。工事費 9,180,000 円は社会福祉充実計画に基づいて支出。
- 昨年度、隣接する高岡市長生寮の大規模改修工事が実施された。これは高岡市の事業であり、空調、給湯、照明、屋上防水などについて設備更新が行われた。従来から、空調、給湯は養護と特養は一体的に運用していたこともあり、設備更新の影響は特養にも及んだ。面積按分などにより算出された工事費の特養負担分約 9,800 万円（既存設備廃棄費用を含む）を高岡市に支払った。工事により給湯がエコキュートに変わったことで、従来からの悩みであった入浴時の湯温の不安定さが解消され、サービスの向上につながった。また、この工事によって灯油を使用する設備がなくなった。